

クシオンはバッチリで、次々に直登する。

やがて二俣。右俣は、大きな雪渓で埋まっている。我々の今日の目標は、左俣の遡行である。小休止した後、左俣へとルートをとる。左俣は、小滝とS.B.が連なっていた。S.B.は全くくぐれない。いちいち上に上がって、越える。小滝は、10m以下のものばかりであるが、6個出てきて、あきさせない。

沢は、だんだん細くなる。水の流れも乏しくなってきた。それとともに、ぐっと傾斜をましてくる。周囲は草付が広がり、チングルマやイワカガミが咲いている。背後には噴煙を上げる茶臼岳の雄姿。快晴に恵まれ、展望を楽しみながら登る。

9:30、ついに源頭。あとは、滑り出したら止まらなくなりそうなほど急傾斜の草付の斜面を登って、流石山の西方の尾根上に出る。 (記・)

【タイム】 三斗小屋宿(6:15)→井戸沢出合(6:20)→右俣出合(8:10)→遡行終了(9:30)→稜線(9:50)→流石山(10:20, 10:50)→大峠(11:30)→三斗小屋宿(15:15)

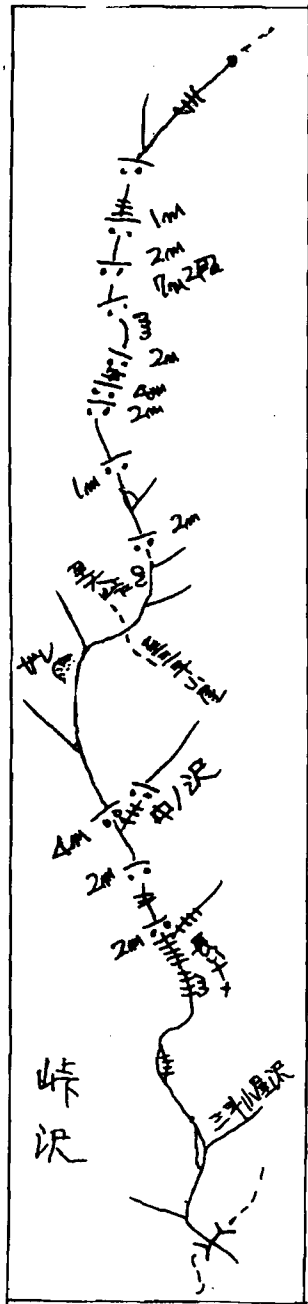
那須の沢

峠 沢 1991年7月14日

5:25遡行開始。途中かなり長いナメと小滝2つが出てきただけで、30分で峠沢と中ノ沢の分岐点に出る。峠沢は、出合に小滝をかけ、中ノ沢は出合からナメとなり、奥に小滝が見えている。今日の予定は、峠沢の遡行、中ノ沢の下降である。

出合の4m滝は、いろんなルートがとれるが、一番楽な左岸を登る。このあとは平凡な沢となり、6:40大峠と三斗小屋温泉を結ぶ登山道を横切る。ここまできると、沢はもうかなり狭くなってきており、平凡なまま終わりになるのではないかと心配になる。

登山道から30分遡ったあたりから、小滝が連続するようになった。落差1~2mの小滝が続く中に、4mと7m 2段の滝が花を添える。両者ともホールドが多く、直登する。この小滝群を突破したところで沢はカレ沢となってしまった。さあこ



れでおしまいかと思っていたら、すぐまた水流が戻り、10m 3段のナメ滝が出てきた。傾斜はそれほどきつくないので楽に登れる滝であるが、峠沢の最後のハイライトであった。

最後のナメ滝を過ぎると、沢はますますほそくなり、ブッシュがかぶさるようになってくる。やがて水流もなくなる。あとは左手の尾根めざしてヤブをこぐ。20分で大峠と三本槍岳を結ぶ登山道に出る。

(記・

[タイム] 三斗小屋宿(5:25)→中ノ沢出合(6:05)→登山道(6:40)→遊行終了(8:10)→三本槍岳(8:45, 9:00)

中ノ沢

1991年7月14日

9:15清水平から中ノ沢の源頭をめざして下降開始。細い流れにそって15分程下ると、一面の笹原となった小さな盆地状の場所に出る。沢はここで蛇行しながら流れている。このあと沢はいったんカレ沢となるが、噴気口の直前で再び水流が戻る。噴気口は沢の兩岸に3カ所あり、白い煙を吹き出し、イオウの臭いが充満していた。温泉も湧き出しており、引湯を試みたのか、パイプの残骸が見られた。

噴気口を後にしてしばらく下る。ずっと平凡な下りが続いていたが、ようやく滝が出てきた。7m。この沢最大の滝である。灌木を利用しながら、右岸を下る。

このあとは再び平凡となった。

左岸から小沢が合流すると、沢床の石に白い沈着物が見られるようになった。水が混ざり合うことによって何か化学反応が生じているようである。この現象は、ここより更に下流でもう1カ所、右岸からの湧水が合流する地点にも見られた。